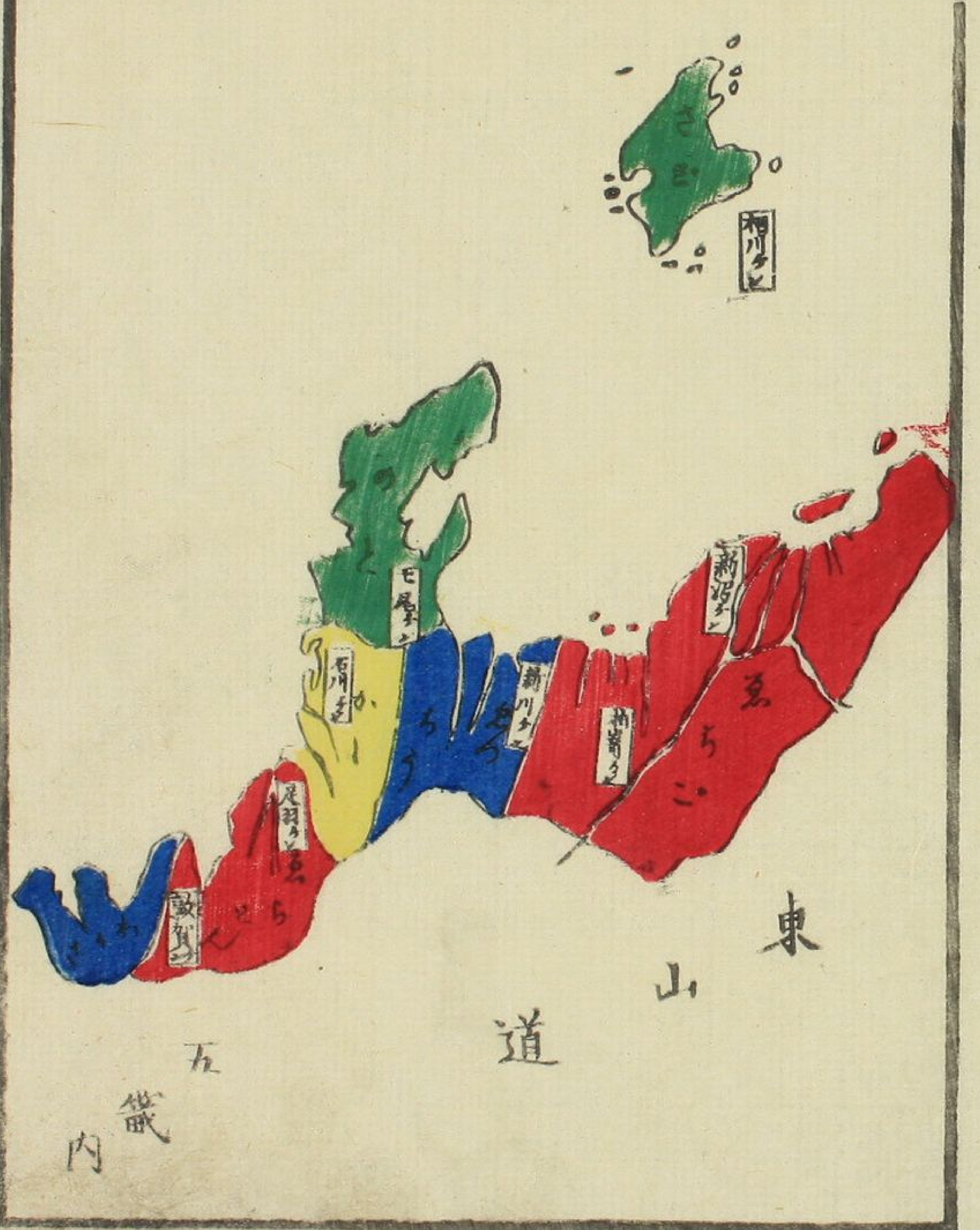
角生氏

日本國盡

北陸道

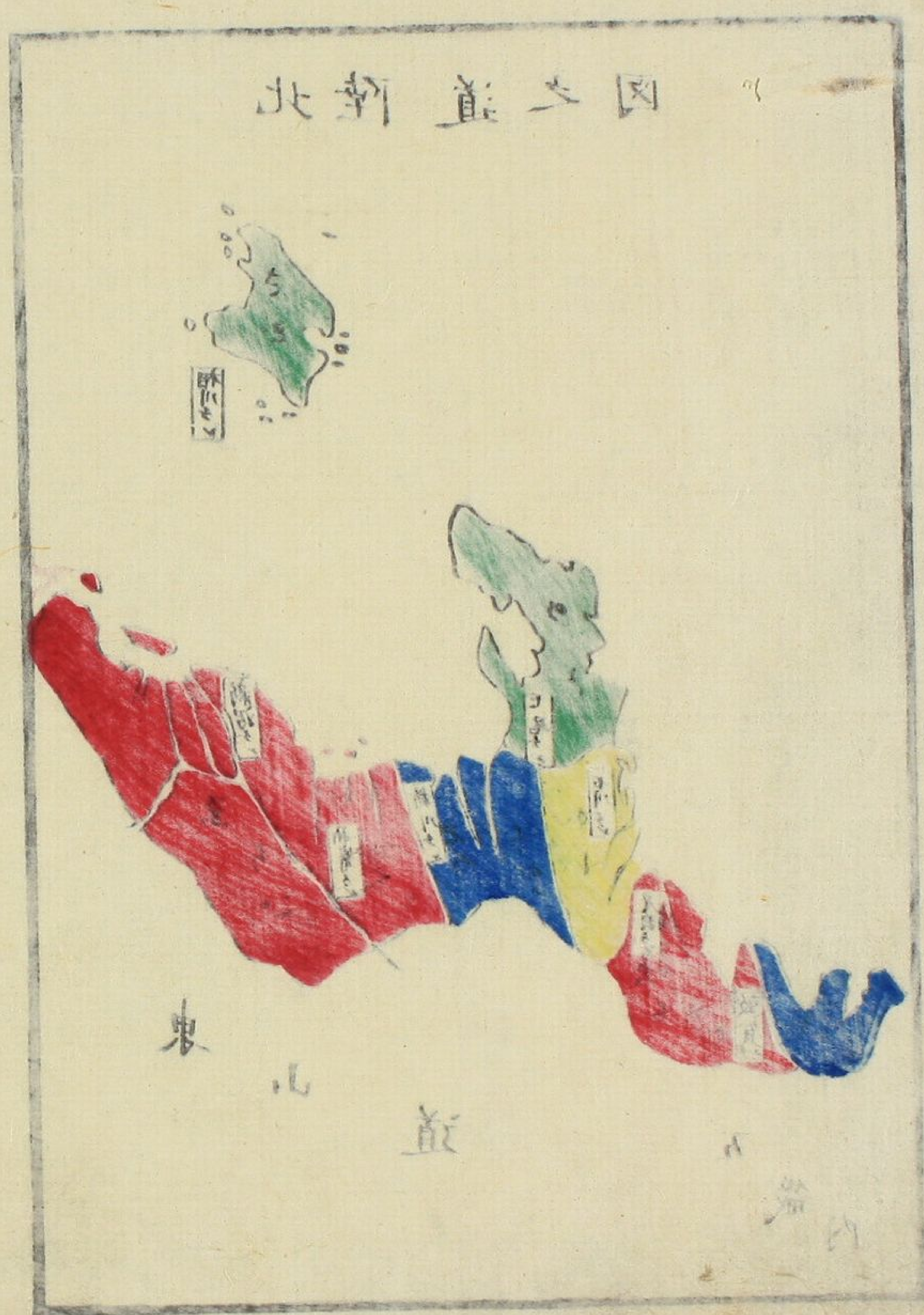
五

北陸道之図



瓜生氏日本國盡巻五

北陸道に七箇國
南東ハ東山道山又山
を脊に負ひ西と北ハ
北海の望みはてなき浪
の面。山陰道より引續き。



艮へつゞけ細長く。延びたる
中なれ
貴一とぞ若狭の國として西の
方丹後より隣る丹波地を。
南より受けゝ東を近江と
越の前の國接れ三方を

山おほく乾より一面濱つゞ
き入こむ浦まゝ二つところ。
中小名あるまゝ若狭浦。
浦より移る小濱と云ふ湊
内なれ一郡會一國三郡人
只そ。大凡七万八千余。氣候

陰氣なり濕おほく。されど
風俗も麗手なり。土地に
名を得し産物は。塗物・石
灰・鰈・小鯛。さく[illegible]管轄ハ
全國を併て隣國越前の
敦賀縣の支配なり。

二り越前より東南に近江
美濃飛騨の峯地を擁し。艮の
方加賀の國西より北海なし
高く。四方山にて包み田こし。
只乾の一方をわづかに
開く土地形勢。平原廣く

地味厚く山まて深く流
水もよく國中に通じたり。
北は西南乃濱手に至り。
山の間より敦賀郡。海湾
長く入込み越前舟の碇
泊場。敦賀港抔に集まれし

く仲哀帝の北狩有りし。
行幸の安まりし行宮を
神威著き氣比の宮居て
建まつる鎮座まし敦賀縣
ならく。隣國は若狭一圓遠
近の。今立南條敦賀なる

三つの郡を支配せらる。山有て越知山日野岳加賀に跨がる白山あり是亦当國の境なり。川ある白鬼女足羽川九頭龍川の三つの河一つに合て海に入る越の

川口ある三國なり。これ湊より巽の方舟まで川を溯り。足羽の川流中より取て開けし市街ある福井なり。高塚まで残りの五郡をすべて支配の足羽縣廳を立役所として府

なる九頭龍川早瀬川。掛たる橋も舟のわたし。さて名所は夕月夜。露のやどる味間野や粟田部には繼体の帝のいましし御位に即せ玉ひしぬ

抑此以前。宮居のありし所なりき。一國中は人口は三十五萬四千余。氣候は寒くて雪深く人氣は輕薄邪智多くさりながら敦賀の一郡にて風俗言語もして

西東て近江の國よりよく
似たり北ハ産物に奉書
紙鳥の子紙や雲母や奉
書紬より墨流石谷切石
雪く母鱒鱈是ハ類ふ佳
品に列

第三ハ加賀に越前の。北東
みな濱つゝき。南に飛騨と
山界雲より聳ゆる白山に
越前飛騨と越中より。跨
がる峯より消果る時なし
しられぬ白妙の。深雪へ

こえまさる根なれ。東は越中之とこん又山おほき地なれハ北ハ能登に隣りて富城の海濱まで魚塩乃地。越前界りし蓮ゞの浦。落入る川ハ菅生川。地なれ

水上の山中をまた山代を温泉あり。湯あまれ宮越入る集ふ。安宅の川ある川日をて深く入江ひ入江なるま地れ北のの手取川。當此内れ大川なく。みなみなる

白山より発る水。挂けぬ川口にれぬ本吉にて。当国一圓管轄の石川縣廳ある湊所。なり犀川浅野川の間に金澤の市街を建て第一なれ。繁昌地と推したゝえ

帯る。浅野川犀川下を出。内高松の澤より来る川の水落合て。湖となる持ぬ少きまゝなり。能登の界なれ。当国一圓人口て。一十九万六千餘。

地冷ゝかなり風つよく。越前ハ
よそよりも雪深し。されども
民俗温和にして。本を守りて
て拙からず。求る心なき
風あり。さて産物は擇
糸や羽二重。加賀絹。杉原

紙。奉書紙や。菅笠や。白山
硫黄。浅野鮴。
等なり。能登ハ一國にて。加
賀越中の間にあるを。北へさし
出し大岬。廻りて三方みな
濱辺の國也。中ハ山あり川ハあれど

極て狭き土地にして。東
は海湾にて廣く。其中
種々半嶋あり。地峡僅
に相通ず。又南手は
海岸の七尾は繁華の
の一港。當國一圓挟まて

まゝ越中の國射水なる。
郡を合へ支配する。七尾
縣廳を立置てある。北なる
端は珠洲岬。山伏岬を廻りて
西の方。沖は一面能登の
海。長閑なり。霞も春の日の。

浪間より見ゆる七嶋や。
能登の嶋山。神の浦。親の
湊を舟出しく濱を傳ふ
て南向小嶋の間をとほきさ
行あかぎ。阿武屋。福浦。なり
ぎはしく。南まで今濱一の

宮越ね間に越て八江なりし。
此一國の人口ハ。一十六万七千
余。土地冷り風烈しく。人
氣は狭くかしこく放その
産物は織絹布。和嶋塗
物素麺や。刺鯖。熊足烏賊

黒漬。

第五の國ハ越中にて西ハ
加賀能登南ハ飛騨東ハ
信濃に北もつゞきて越後なり
隣るハ海。國の界ハ
みな山岳西ハ石動二

國山久利伽羅岳や源氏が
峯黒坂山より礪波山南ハ
水無國見坂東より朝日
佛岳剣浄土の間にて峯
たかく立山や地獄の
燃立つ火山なり。川ある[illegible]

隈より落ち来る逆巻波
の神通川國の央を貫く。
流れて入るは布施の海ぞ。其の
川口は富山なる其新川縣の
廳を置く其れは管轄ぞ遠
ゆは礪波や婦負と新川

の三郡なまでぞ射水なれ。
西は砺波の一郡ぞ能登乃七
尾の支配なりし神通川を
中に置きて川ぞひけふる舟
橋の。西も東も土地のなり次
第り廣く見ゆるの景多く。

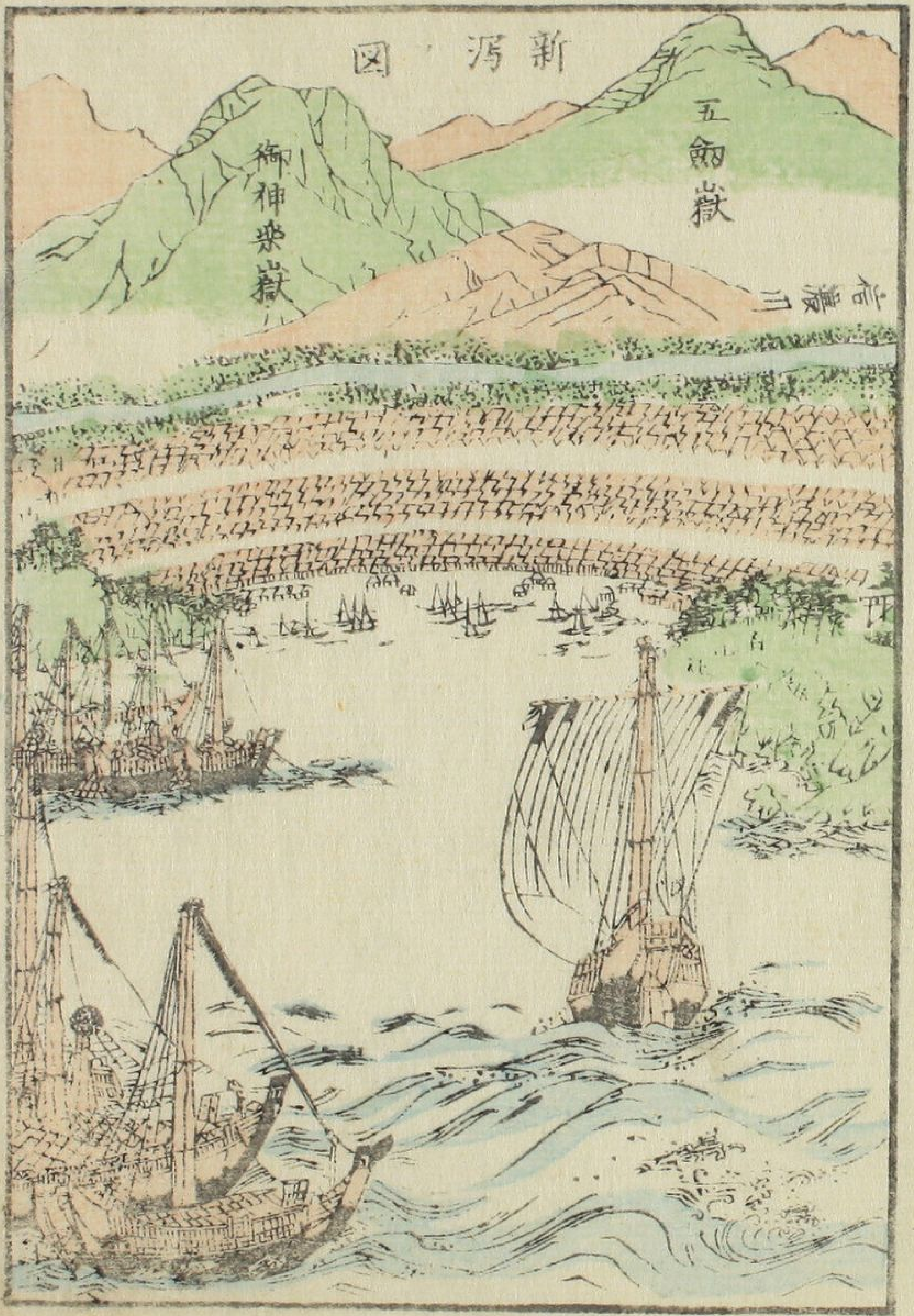
蝴蝶の羽根を開きたる形
りさしもよく似たり。西ハ
る羽根より中田川また庄川
え隣國ハ飛騨より流れ
東ハ水其ハ川口の濱迄よ
まて古國府湊今らしなり。

名のみ有礒の名湖は海。
東ハ布施川いろは川其の
水源ハ立山の熱水雪と
解ヶ流れ。みなぎり落る
早瀬ふて橋もなく棧橋相本
ざし。其外北の方。堺川。越後

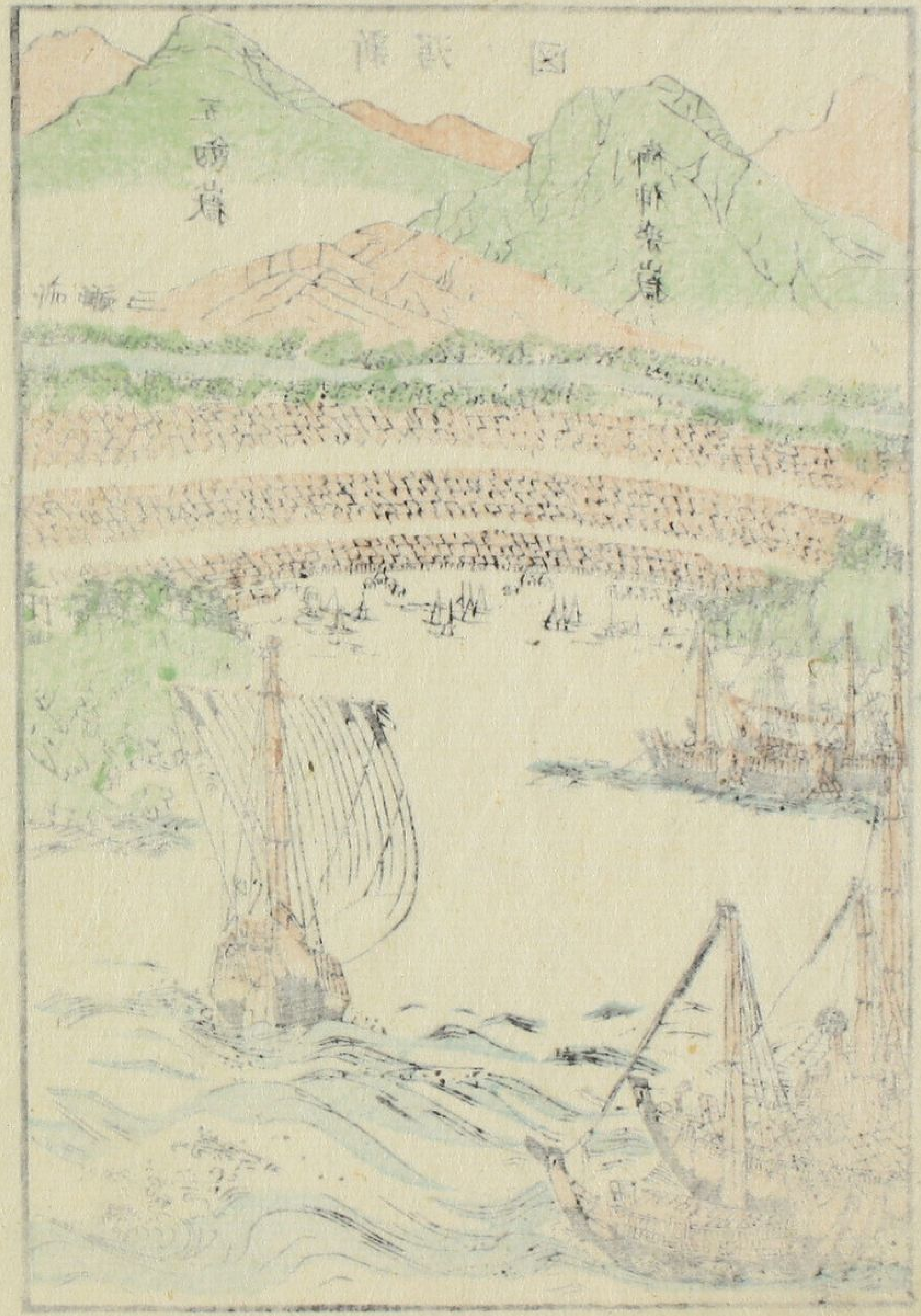
の國とは界なり。東の羽根
山西の方能登とは間に大
灣あり。總名富山乃海とし
いふ一國すべて人口は三十
四萬五千余。風土は寒く
雪おほく。五穀實りよく
熟せ。山には漆あり海には魚。人
氣はる智あり勇ありまして陰
寧一のちふそ佞おほし。越の
產物は八講布白川糸や絹
物や鹽硝黃連。反魂丹龜
谷鉛鰤鮭足。

第六番は越後の國。北陸道
乃家大國。越中地より引續
き細く長く艮へ延び止り
は羽前まで。乾は一圓岸
うつ浪。流れあふるる佐
渡島。南東は信濃地と

上野岩代より山界。岩かより
一面なり國内山岳嶮しく。大
河小川數しげく越中界。小
橋立山黒姫山や外波山。山
のふかき海岸は無双の難所。
親不知又越れば次は駒返



まづ青海川の口。此は東なる姫川より信濃の国より流る川。川は東より名字岳。信濃の界の焼山は四時に火烟は絶ることなく妙高山も火山なり。此れは外赤倉不動山



信濃の野尻沼より水流出
要く関川乃末は荒川となる
信濃道下り川口直江浦
浦より望見ゆる米山の東より
八石黒姫山北より小の方海
濵より立てある町まで柏崎

越後七郡其が中の南の
五郡を支配する柏崎縣
ありて八石山の南なる天水
山や菱ヶ岳黒姫高山と大山
間より。信濃の方より流れ会る
川を所謂信濃川。三大河

中の其は一つ。夫より北へ
流通し。大小数川加はりて。
海へ落ち込む川口は外国
人との交易場是ぞ新潟
の大港。河舟海舟も。
日夜出入は小絶なく。市街

乃繁栄賑し港の新潟
佐渡は当国の北に二郡なる。
蒲原岩船なを支配せり。其
長し鳥屋潟。阿賀の流や
福島潟。水上遠く岩代の。
国より落る会津川。三国

峠は当国と。信濃上野
三国の間にありあまねく東北へ。
往来も繁き山の道。北陸
道とよぶ是ぞかし。抑も古
へは大国にて。火山乃猛
多く有しも。今変じより焔のもえ

出づる。火井といへる井戸もあり。又臭水なる油にて地より沸出る油あり。即ち世にいふ石炭油。用ゐて照して夜の闇。造化の妙工思ふべし。其人口多し大都は一百九万

二千余。氣候寒冷。雪つもり。人氣は極めて貞実にして強きに過し気象あり。其産物は絹布類。晒縮や蝋燭あり。漆。臭水油。鉛あり。第七佐渡は越後より北に

當まて十八里。能登の珠洲より三十五里風濤のよそ北海の沖に立てる嶋の地ハ周廻凡五十八余里。東と西を廣くして中ハ南と北の方双方海灣入込て。

狭くなりてわづかに三十余まく開けたる平地なれど北の灣小なる湊町にぎはふ所々湖あり。南の灣ハまて東西ハ重疊したる山岳より落来る清水左右より

集まりて入る國府川にも合
町々郷町して西へ廻りて海
相川や當國のうち繁昌地
全國三郡管轄の相川
縣廳これあり。山北は地
に名を得しま東へ　金

山西ふかし。金北檀特上杉
山。金北山の西南相川より
北東。鑛山あまたり堀出せ
品を世にして佐渡の金
金銀の量今も右はは昔ふ
かまらずと聯し。其も以味を

承久の昔順徳天皇の逆臣北條義時より遷されたまひし所なり。今も東り御陵あり。一國人口九万余土地よく草木他に勝れ。五穀牛馬もいと多く風

土ハ雪と風烈しく人氣狭く頑固なり。其産物ハ金と銀。小鰯弦藻細辛と知るべし。

瓜生氏日本國盡巻五　終

瓜生三寅著
第三大區三ノ小區
四番町一番地

明治五年壬申十月新雕

名山閣
東京芝大神宮前
和泉屋吉兵衛